

マーシャル諸島の伝統カヌー

Waan Aelōñ in Majel ディレクター

アルソン・J・ケレン

(Alson J. Kelen)

マーシャル諸島で語り継がれる伝説によると、航海カヌー(WA、ワ)と航海術の始まりに関して大変重要な出来事が3つありました。ひとつは、精霊の島 Eb から Lewa と Lōmtal がやって来て、今日のマーシャル諸島伝統の航海カヌー、すなわち空気力学的に優れた左右非対称な形をした船体をもつ航海カヌーを教えたことです。それ以前は、ただ粗く削られただけのカヌーが環礁や外洋を行き来していました。その次に、Leñtañūr という女性が、最初のセイルとロープをもたらしたことです。Leñtañūr は、12 人の息子たちのカヌー漕ぎ競争で、素直に言うことを聞き入れた息子に、褒美としてセイルとロープを与えたのです。それから、私たちの最後の女神 Litōrmelu が自分の息子 Lainjin に航海術の知識を授け、ロンゲラップ環礁で最初の航海術を確立したことです。

マーシャル諸島は 1500 年代から 1900 年代初頭まで、西欧と日本の厳しい植民下に置かれ、その間、航海カヌーの建造と利用は減ってしまいました。その主な原因の一つは、ドイツがスクナー船を持ち込み、コプラの運搬と商売に使ったことです。後に第二次世界大戦が始まると、すべての航海カヌーの活動は止まりました。男たちはみんな、島嶼間航海を禁止されたからです。しかし航海を続け、守った女性たちがいました。

その後 1940 年代から 1950 年代にかけて、アメリカ軍は核実験をするために多くの住民を移転させました。アメリカ軍は核実験を行ったのみならず、エンジン付ボートも持ってきました。その結果、マーシャル諸島の半分以上の島々で、伝統カヌー建造と航海の知識は失われていきました。

1980 年代後半、マーシャル諸島国立アレレ博物館(Alele National Museum)は、マーシャル諸島の異なる島々で伝統カヌー建造工程を記録する、“島々のカヌー”<Waan Aelōñ Kein (Canoe of these islands)>というプロジェクトを立ち上げました。この活動中、毎日大勢の、特に 14 才から 19 才の若い男女が私たちを訪ねて来ました。彼らが興味を持ったのは素晴らしいことで、私はとても嬉しかった。あとでわかったことですが、そうした男女の若者たちはすべて、学校から落ちこぼれた者たちでした。彼らのためにできることは、特に離島には、何もありませんでした。退学した若者たちのためにプログラムを作るアイデアは、そんな彼らの訪問から生まれました。

後に、これまで記録してきたカヌー建造の知識と技術を用いて、落ちこぼれた若者たちの意識を変え、彼らがより明るい未来を築いていく機会を与えるプログラムが実現しました。私たちは今、そのプログラムの素晴らしい成果を目の当たりにしています。

プログラムの基本方針は、次のようなことです。

1. 研修生はマーシャル諸島の文化を学び尊ぶこと
2. 研修生は自分たち自身を学び互いに尊重すること

3. 研修生たちは、タブレットやスマートフォンが強烈な勢いで伝統的な技術にとって変わろうとしている現代の社会において、新しい伝統の技である木工・木彫の技術を学ぶこと
4. 研修生は環境を学び尊ぶこと

廃れかけた伝統の木工・木彫の技は、今、私たちの毎日の暮らしの中で大切な手段として生き返り、調和のとれた未来のために過去と現在を結びつつあります。

気候変動の悪影響が迫る中で、私たちの国マーシャル諸島は最も脆弱なところです。海上交通の手段としてカヌーを利用することは、持続的で二酸化炭素を排出しない方法ともなっています。